

「令和元年台風第19号に関するアンケート」 集計結果

令和3年3月

二本松市 市民部 生活環境課

目 次

1 調査概要

- (1) 調査目的 2
- (2) 調査対象等 2
- (3) アンケート調査票 3

2 アンケート結果

- (1) 災害リスクの認識 6
- (2) 情報の入手状況 8
- (3) ハザードマップの認知度 9
- (4) 開設された市指定避難所の認知度 . . . 10
- (5) 市指定避難所の運営に対する意見 . . . 11
- (6) 地元集会所の避難所としての開放 . . . 12
- (7) 災害廃棄物の集積所設置 13
- (8) 災害対応で難しいと感じたこと 14
- (9) 自主防災組織の立上げ 15
- (10) 市に求める災害対策 16
- (11) その他災害全般に対する意見 18

3 まとめ 20

「令和元年台風第19号に関するアンケート」集計結果

1 調査概要

（１）調査目的

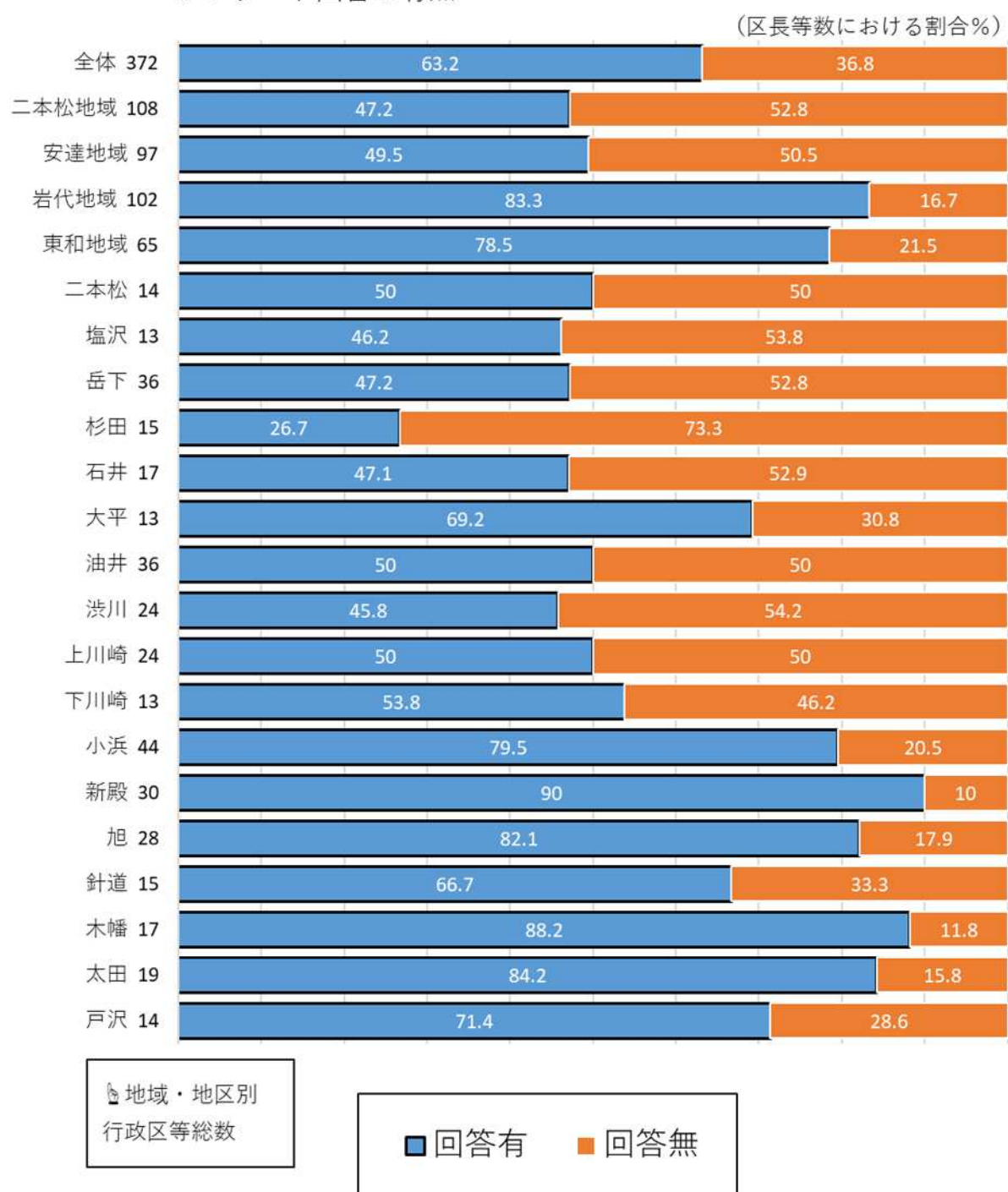
東日本に大規模な被害をもたらした、令和元年台風第19号の検証材料として、地域住民の代表であり、災害時において様々な対応を行っていただいた市内の行政区長・町内会長等（岩代地域では行政委員を含む）（以下「区長等」とする。）に対し「令和元年台風第19号等に関するアンケート」を実施した。

このアンケートは、台風第19号が上陸した令和元年10月12日（土）～13日（日）及びその後の災害対応において、区長等が日ごろ地域の危険性等についてどのように認識されていたのか、防災情報をどのように入手したか、ハザードマップ及び避難所の開設情報の認知度、災害対応に苦慮したこと、自主防災組織及び市に求める防災対策などを調査したものであり、今後の市の防災対策に役立てていくことを目的とする。

（２）調査対象等

- | | |
|----------|---|
| ①調査対象 | 区長等 全372名 |
| ②調査手法 | 令和2年2月区長会議にて配布、記入後4月区長会議頃までに本庁生活環境課、各支所地域振興課、または最寄りの住民センターへ提出 |
| ③回収数／回収率 | 235件／63.2%（地域・地区毎の回答の有無は次頁のとおり） |

アンケート回答の有無



アンケート回収率においては、地域・地区により差が生じた。

台風による被害の多かった岩代・東和地域においては回収率が 80%前後、被害が比較的少なかった二本松・安達地域においては回収率が 50%を下回った。

さらに地区別で見てもアンケート回収率の差が見られる。

令和元年台風第19号等に関するアンケート

行政区（町内会）名を記入願います

(行政区等名)

- ・ 今回の台風について特にご意見等無い場合は提出不要です。
- ・ あてはまる選択肢の番号を○で囲むか、□・（ ）欄に必要事項を記入願います。
- ・ 回答いただいた内容については台風第19号の検証作業にのみ利用させていただきます。
- ・ 4月の区長・町内会長会議までに本庁生活環境課、または最寄りの各支所地域振興課、各住民センターへ提出願います。

①台風第19号について、自分の地区においてどのように考えていましたか。（○はいくつでも）

1. 自分の地区ではたいした災害は起こらないと思っていた
2. 自分の地区の中で災害が起こるかもしれないと思っていた
3. 災害が起こるとしても過去に経験した範囲に収まるだろうと考えていた
4. この地域は住宅のかさ上げ等の対策をしていたので大丈夫と考えていた
5. 過去の災害の後に堤防強化などの対策がとられたので大丈夫と考えていた
6. 台風の影響が強まる前に避難が必要と考えていた

②台風第19号の情報をどこから入手していましたか。（○はいくつでも）

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 戸別受信機（防災ラジオ） | 9. インターネット（市ウェブサイトを除く） |
| 2. 防災行政無線（屋外スピーカー） | 10. SNS（ツイッター、フェイスブック、等） |
| 3. 市が発信する緊急情報メール（登録制メール） | 11. テレビ |
| 4. 緊急速報メール（エリアメール） | 12. ラジオ（防災ラジオを除く） |
| 5. 市ウェブサイト | 13. 新聞 |
| 6. 市の公式ツイッター | 14. スマートフォンの防災アプリなど |
| 7. 家族・友人・知人等 | 15. その他（ ） |
| 8. 消防団・自主防災組織・民生委員等 | |

③ハザードマップを台風第19号発生前に見たことがありましたか。（○は1つ）

1. ハザードマップがあることを知っていたが、よく見たことはなかった
2. ハザードマップを見たことはあるが、内容までは覚えていなかった
3. ハザードマップを見ていたが、見方がよくわからなかった
4. ハザードマップを見て、自分の地域についてはあまり関係が無いと判断した
5. ハザードマップを見て、内容もある程度覚えていた
6. ハザードマップを見て、有効活用できた

④台風の際に開設された市の指定避難所について知っていましたか。（○は1つ）

1. どの施設が避難所として開設されたか知っていた
2. どこに避難所が開設されたか知らなかった

⑤市の指定避難所の運営についてご意見がございましたら記入願います。

(裏面へ続きます)

⑥地元の集会所等を避難所として開放しましたか。(〇は1つ)

1. 解放した…集会所等名と避難者数を記入⇒ 集会所等名： 避難者数：約 人
2. 特に必要を感じなかったため開放しなかった
3. 近くに市の指定避難所が開設されたため開放しなかった
4. 今回開放しなかったがもっと事態が悪化した場合は開放する予定だった
5. 集会所等が被災する可能性があった（または被災した）ため開放しなかった
6. その他 ()

⑦今回、災害廃棄物をもとみやクリーンセンターへ直接搬入する方法のほか、行政区毎に集積所を決めて災害廃棄物を集めていただく方法がありましたが、集積所の活用について。(〇は1つ)

1. 集積所を設置して有効に活用できた
2. 集積所を設置したが、課題が残った（理由：)
3. 集積所を設置するほどではないと判断したので設置しなかった
4. 集積所の設置ができなかった（理由：)

⑧台風第19号で災害対応が難しいと感じたことは何ですか。(〇はいくつでも)

1. 避難の判断 5. 台風情報の取得
2. 障がい者の避難誘導 6. 被害状況の確認
3. 高齢者の避難誘導 7. 一人暮らし世帯などの安否確認
4. 集会所の避難所としての利用 8. その他 ()

⑨自主防災組織※を立ち上げていますか。(〇は1つ)

※地域住民が自発的に結成・運営し、被害予防と被害軽減のための防災活動を行う組織

1. 既に組織され、規約なども整備されている
2. 今後組織化する予定 ⇒ (予定時期 令和 年 月頃)
3. 必要と感じているが、どのように立ち上げればいいかわからない
4. 必要と感じているが、立上げできない理由がある（理由：)
5. 必要と感じていない（理由：)

⑩市に求める災害対策として特に重要と考えるものは何ですか。(重要なものから〇を3つまで)

1. 避難情報などの情報発信 7. 防災ラジオのさらなる普及
2. ハザードマップの改良 8. 防災行政無線（屋外スピーカー）の強化
3. ハザードマップの地元説明会 9. 河川整備などのハード対策
4. 避難所を増やす 10. 被害に対する補助制度等の充実
5. 避難所の快適性の向上 11. 防災に関する講演
6. 自主防災組織の立上げ・運営の支援 12. その他 ()

⑪その他（災害全般に関するもので何かご意見等ございましたら記入願います）

以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

二本松市 市民部生活環境課 生活防災係 (☎55-5102)

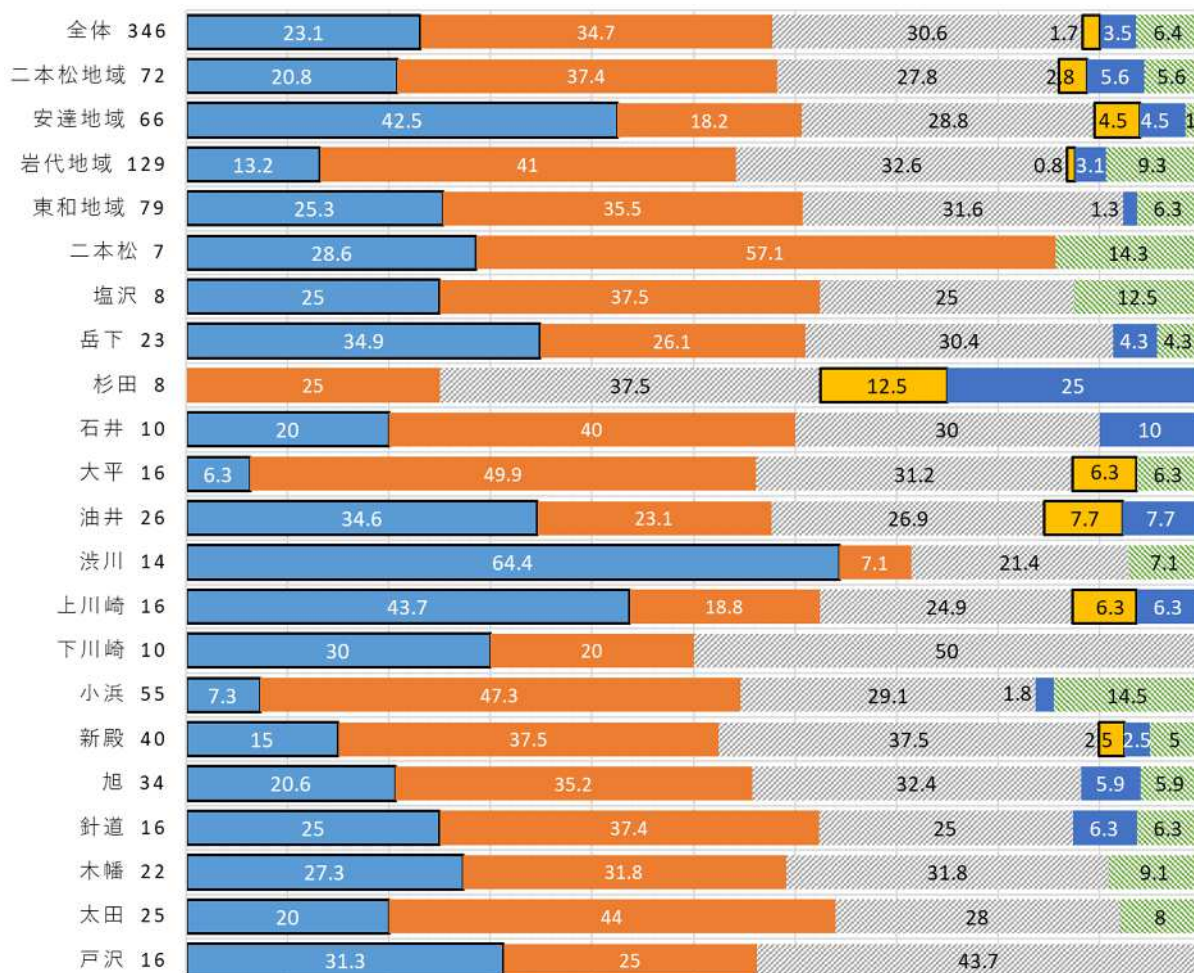
2 アンケート結果

以下、回答のあったアンケート項目①～⑪毎に、その集計結果を地域別等に示す。

(1) 災害リスクの認識

①台風第19号について、自分の地区においてどのように考えていましたか。(〇はいくつでも)

(〇の総数に対する割合%)



- 1. 自分の地区ではたいした災害は起こらないと思っていた
- 2. 自分の地区の中で災害が起こるかもしれないと思っていた
- 3. 災害が起こるとしても過去に経験した範囲に収まるだろうと考えていた
- 4. この地域は住宅のかさ上げ等の対策をしていたので大丈夫と考えていた
- 5. 過去の災害の後に堤防強化などの対策がとられたので大丈夫と考えていた
- 6. 台風の影響が強まる前に避難が必要と考えていた

全体では「2. 自分の地区の中で災害が起こるかもしれないと思っていた」地区は34.7%と最も多かった。

しかし、「3. 災害が起こるとしても過去に経験した範囲に収まるだろう」「4. この地域は住宅のかさ上げ等の対策をしていたので大丈夫」「5. 過去の災害の後に堤防強化などの対策がとられたので大丈夫」と考えていた地区を合わせると全体の35.8%と最も多くなり、それに対して「6.

台風の影響が強まる前に避難が必要と考えていた」地区は 6.4%にすぎず、多くの地区にとって想定していなかった被害が発生したことが考えられる。

市内でも被害が少なかった安達地域では「1. 自分の地区ではたいした被害は起こらないと思っていた」行政区が 42.5%と、突出して多かった。

平成 25 年の豪雨災害の記憶が新しい岩代地域の小浜地区では、「2. 自分の地区の中で災害が起こるかもしれないと思っていた」が 47.3%、「6. 台風の影響が強まる前に避難が必要と考えていた」が 14.5%となっており、他の地区より多くの区長等が台風第 19 号に警戒していたことが考えられる。

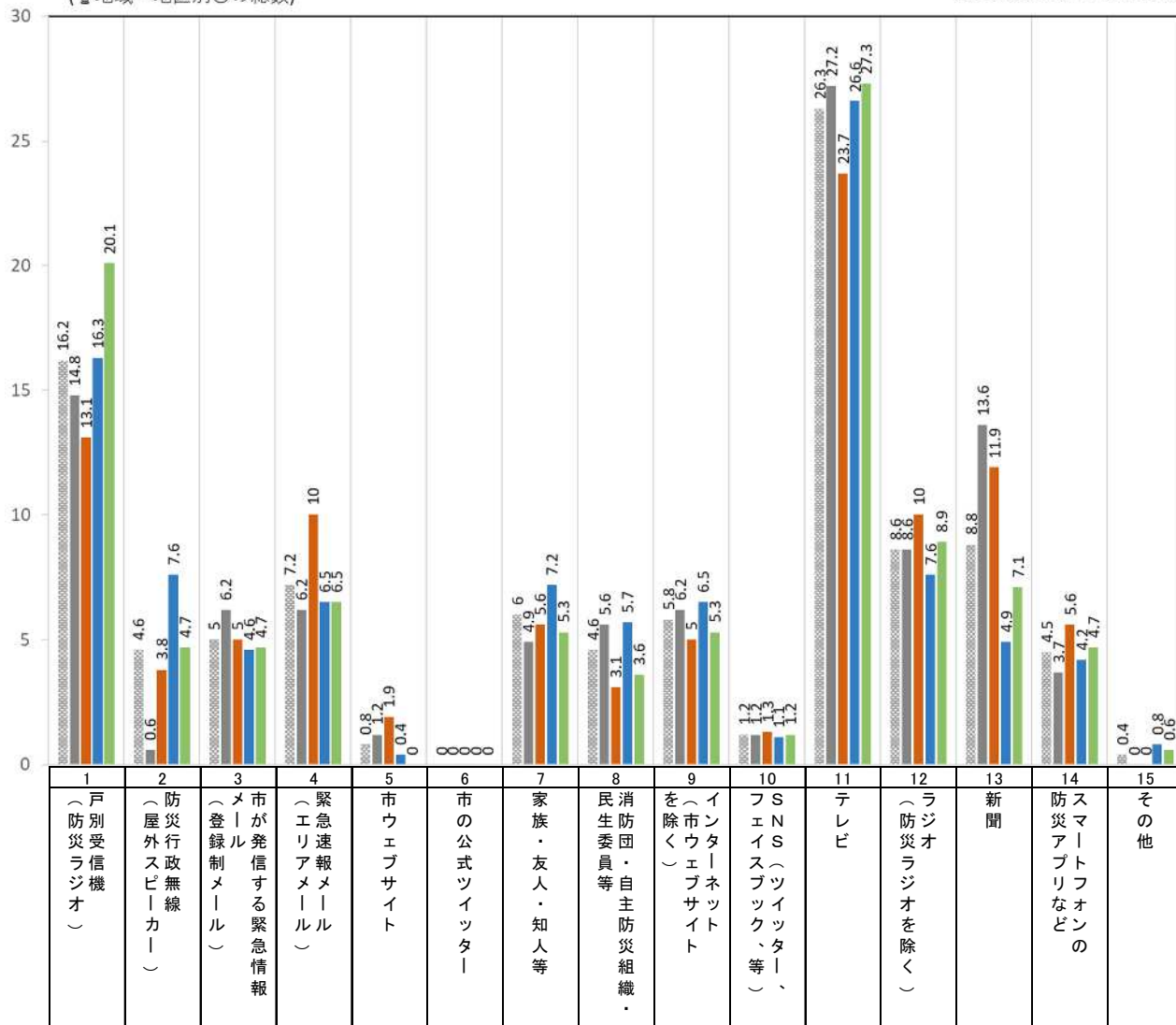
(2) 情報の入手状況

②台風第19号の情報をどこから入手していましたか。(〇はいくつでも)

■全体 754 ■二本松地域 162 ■安達地域 160 ■岩代地域 263 ■東和地域 169

(地域・地区別〇の総数)

(〇の総数に対する割合%)



台風第19号の情報の入手先は、全体では「11. テレビ」が26.3%と圧倒的に多く、次に「1. 戸別受信機 (防災ラジオ)」が16.2%と多かった。地域差が大きいのは「1. 戸別受信機 (防災ラジオ)」と「2. 防災行政無線 (屋外スピーカー)」で、岩代地域と東和地域が他の地域より大きいのはこれらの普及率の違いとこれまでの利用実績の差と考えられる。

「5. 市ウェブサイト」「6. 公式ツイッター」「10. SNS」はいずれも低いですが、調査対象が区長等であり、比較的年齢層が高いことから、利用形態が少ない情報の入手先だったと考えられる。

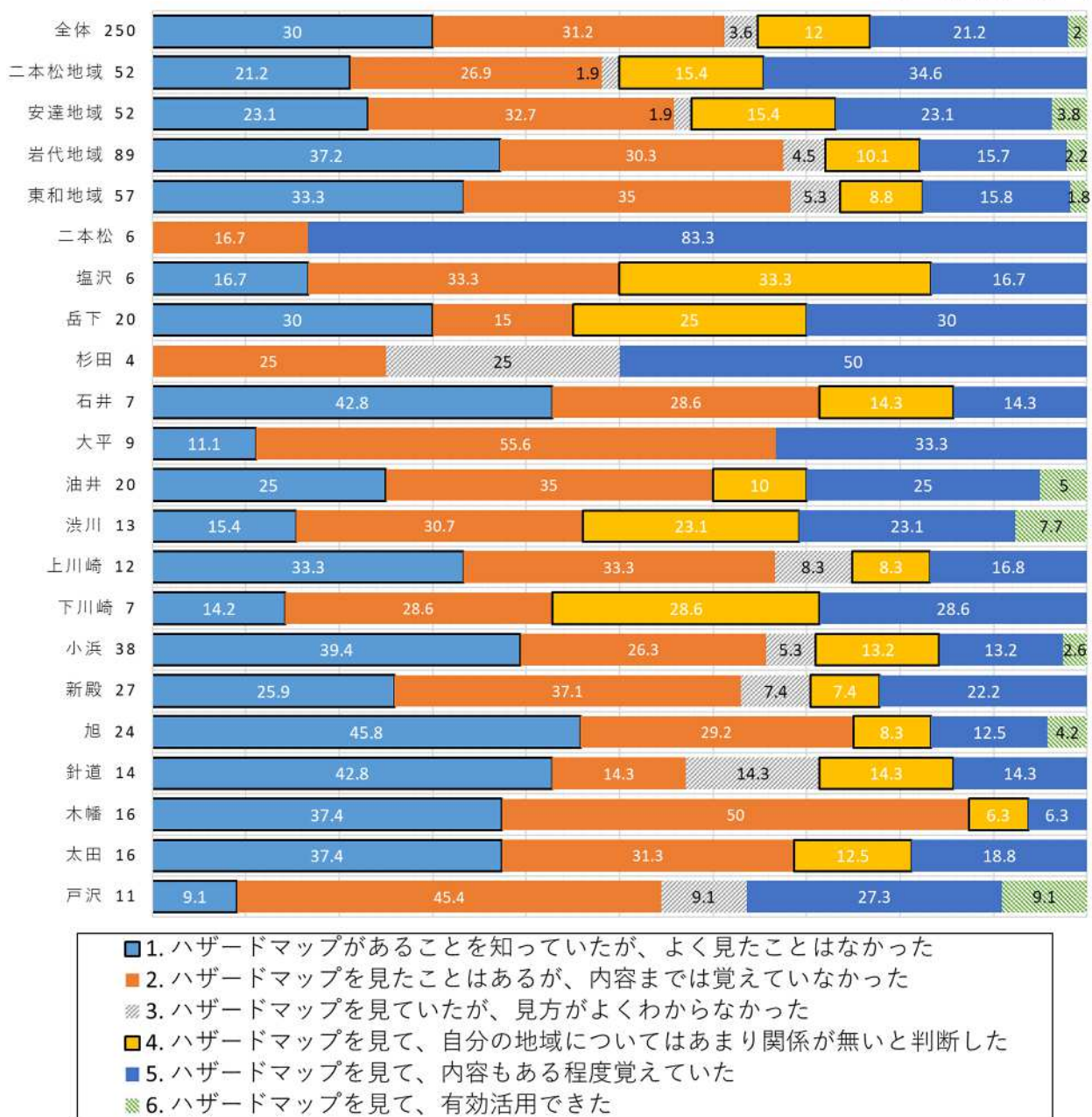
「15. その他」としては、「地域内を見て回った」「自分で調査した」といった回答があった。

それぞれ単独のツールのみで100%情報を伝えることは難しいため、様々なツールを用いて情報発信する必要があることがわかる。

(3) ハザードマップの認知度

③ハザードマップを台風第19号発生前に見たことがありましたか。(〇は1つ)

(〇の総数に対する割合%)



ハザードマップについて「1. よく見たことはなかった」「2. 見たことはあるが内容まで覚えていなかった」「3. 見方がよくわからなかった」の合計が全体の 64.8%と高く、それに対して「5. 内容もある程度覚えていた」「6. 有効活用できた」の合計が全体の 23.2%と低かった。

ハザードマップの周知と、よりわかりやすく、有効活用してもらえる内容への改良が、今後の課題であることが明らかとなった。

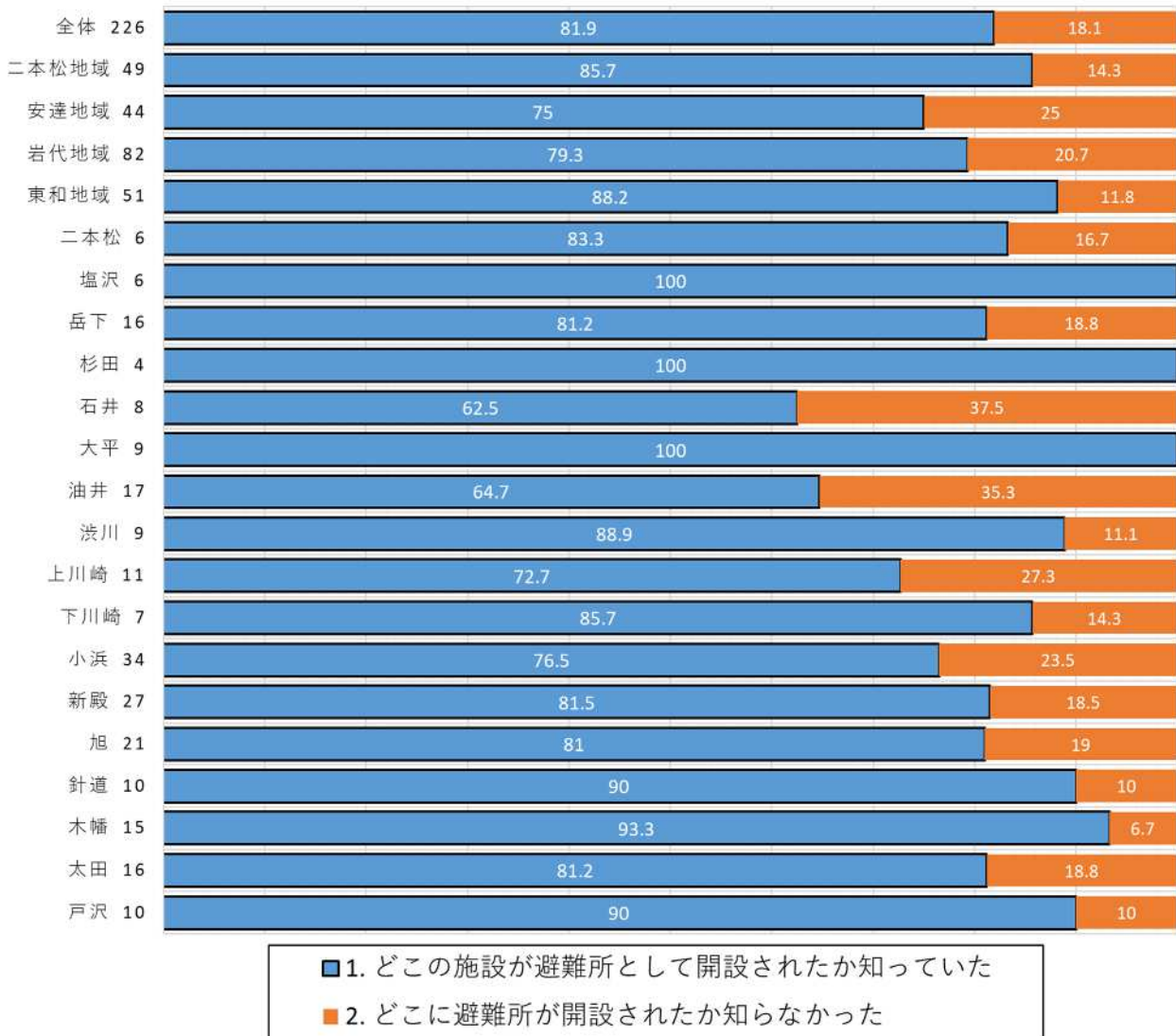
また、各地区において差が大きいことが判明し、認知度が低い地区では出前説明会などを積極的に実施するなど更なる周知の必要がある。

(4) 開設された市指定避難所の認知度

④台風の際に開設された市の指定避難所について知っていましたか。

(○は1つ)

(○の総数に対する割合%)



全体で80%を超える認知度があったが100%であることが望ましいため、避難所開設情報の確実な周知方法について、検討が必要である。

(5) 市指定避難所の運営に対する意見

地域名	地区名	⑤避難所運営について（自由記載）	左記の意見を分類化
二本松	二本松	日本間がない、テレビがない	1. 設備充実
		根崎からは遠方で、現実的ではない。地元に集会施設があれば、これを利用するのが極めて現実的ではないか。	2. 避難所見直し
	岳下	今回の台風では当地区の方は居なかったので安心ですが他地区の方は何名か利用したと思います。	5. 満足
		迅速な公報(アナウンス)が必要	3. 情報発信強化
安達	油井	当地区でも被害があり住民センター所長が避難所で次の日まで待機していただいて大変お世話になりました	5. 満足
		避難された御婦夫によるとまあまあだったと	2. 避難所見直し
	下川崎	近くの学校等を避難所として開放するべき	2. 避難所見直し
		自宅は宮だけど大中地までは遠すぎ 行くまでに災害にあいそう	2. 避難所見直し
岩代	小浜	下川崎地区には住民センター1ヶ所で人数にも制限がある 旧下川崎小学校跡地を追加してほしい	2. 避難所見直し
	新殿	お世話になりました	5. 満足
		各行政区にある施設も避難所にしてほしい	2. 避難所見直し
		運営には特に意見はないが避難所への移動に問題あり	4. 移動手段
		高齢者は避難が難しい、特に夜間。運転免許を返納する指導とギャップあり	4. 移動手段
東和	太田	指定の避難所に行く途中で口太川があり、今回橋が流され避難できるような状況になかったので避難所の見直しも含め検討されたい	2. 避難所見直し
		旭	2. 避難所見直し
東和	太田	百目木地区の避難所は川の近くであり安全と思えない	2. 避難所見直し
		指定避難所までの道路通行が危険なので動かない	4. 移動手段
		若宮区の避難所としては近いので助かった	5. 満足

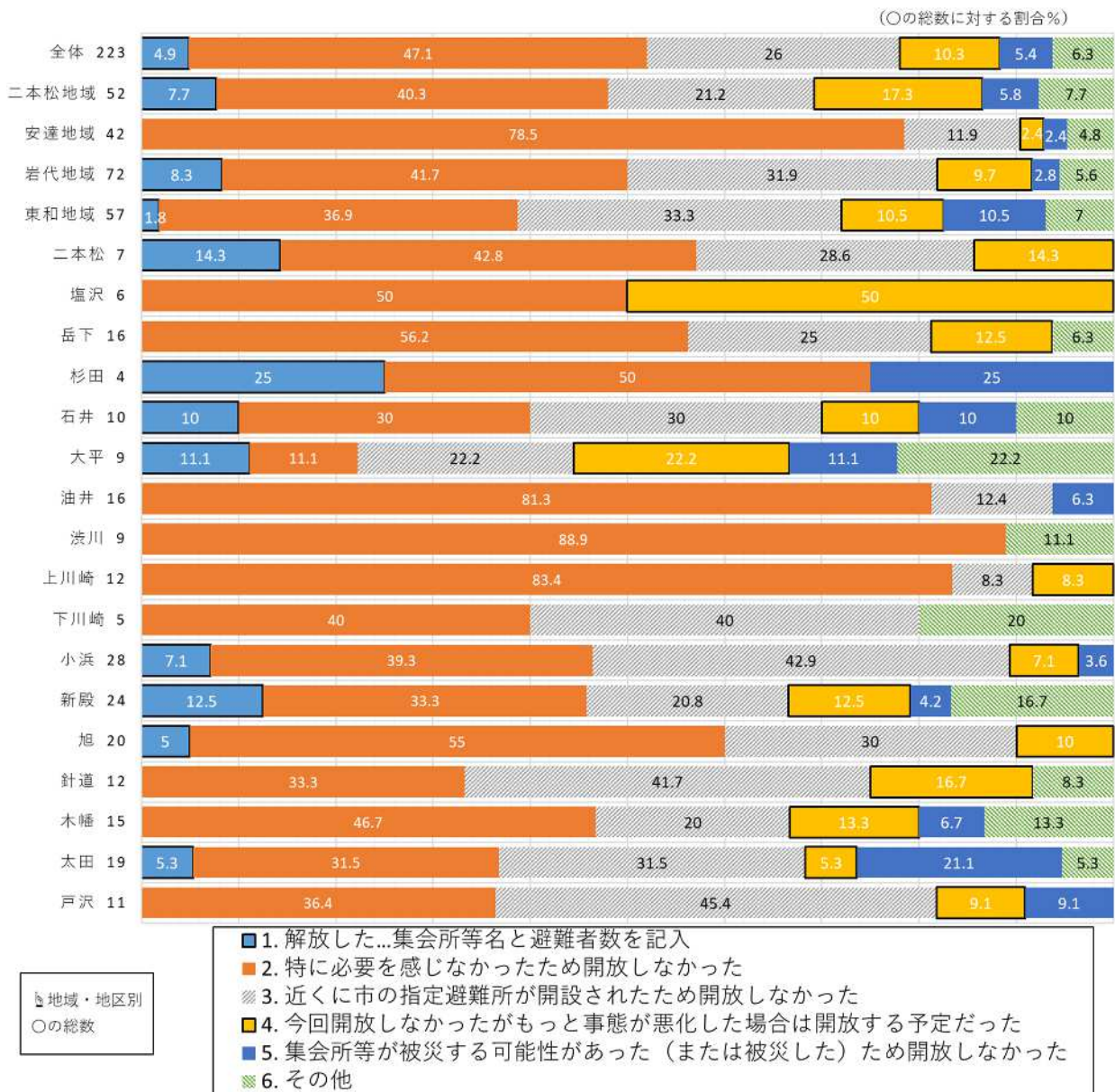
避難所運営に対する意見については17件記載があり、その内容を大きく5つに分類したところ、多かった順に「2. 避難所見直し」が7件、「5. 満足」が5件、「4. 移動手段」が3件、「1. 設備充実」と「3. 情報発信強化」がそれぞれ1件であった。

「2. 避難所見直し」では、近くでより安全な避難所の開設を求める意見が多かった。市の指定避難所の開設により全ての地区をカバーすることには限界があるため、分散避難の周知を行い、地区集会所の避難所利用などの協力を求める必要がある。

「4. 移動手段」においては、夜間や危険な状態になってからの避難所への移動を心配する意見があった。日中の安全なうちに早めに避難することで解消できる内容でもあるため、市としてなるべく早めに避難情報を発表して避難所を開設することとし、避難に時間がかかる場合は早めに避難を開始してもらうことと合わせ、分散避難の周知を行う必要がある。

(6) 地元集会所の避難所としての開放

⑥地元の集会所等を避難所として開放しましたか。(〇は1つ)



集会所を避難所に「1. 解放した」地区は全体で 4.9% の 11 箇所、避難者数は合計 67 名であり、それに対して市で把握していた数は 3 箇所、避難者数は合計 10 数名に過ぎず、地区の判断により多くの集会所が避難所として開放されていたことが判明した。集会所を避難所に利用することを想定し、情報収集手段として防災ラジオの貸与を検討する。

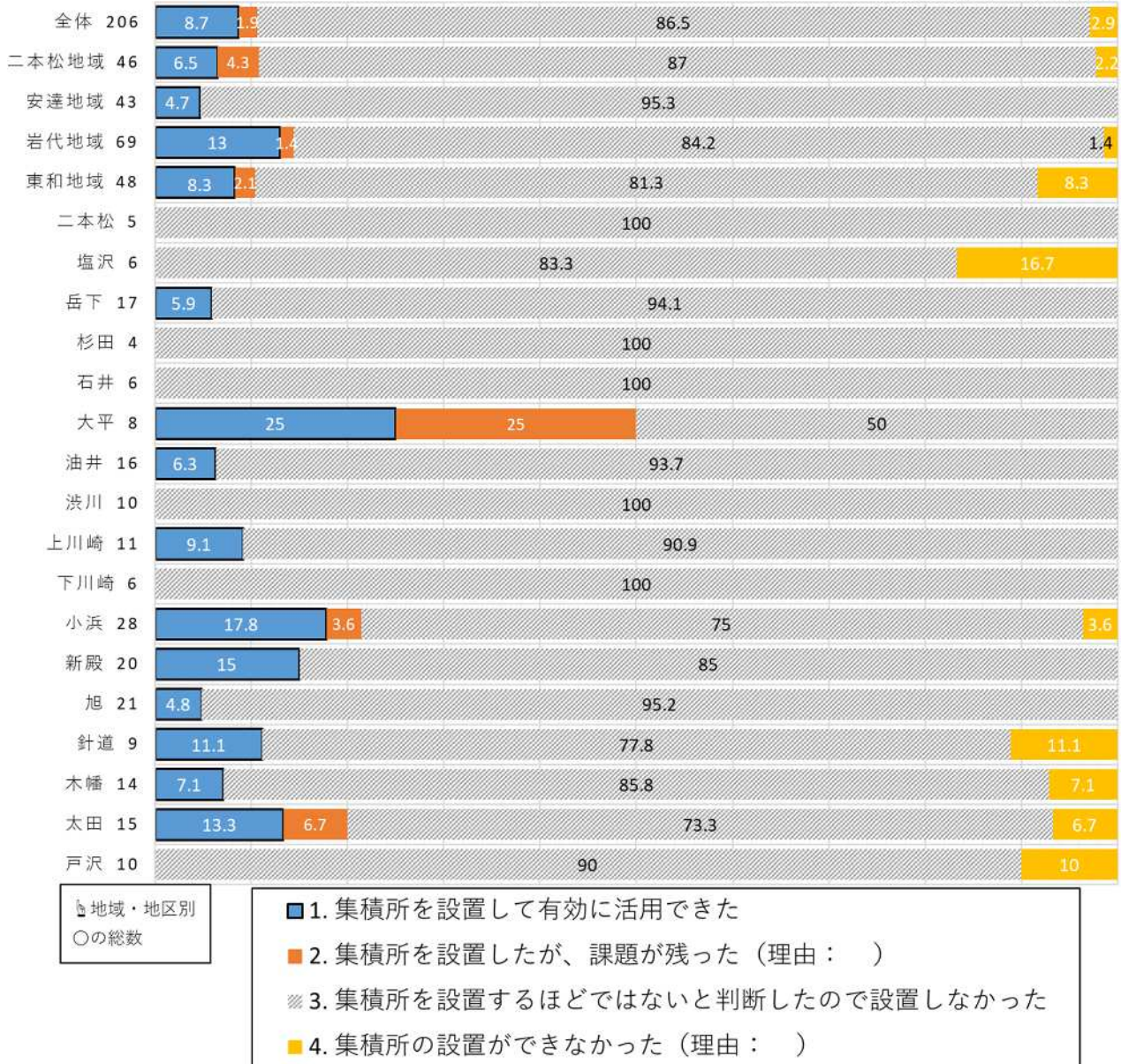
「5. 集会所等が被災する可能性があった」と「6. その他」を除く割合の合計は 88.3% であるため、多くの地区で集会所を避難所として利用できる可能性があることがわかった。

「6. その他」に記載された内容では「集会所を避難所に開放する発想が無かった」「地区に集会所が無い」がそれぞれ 3 件、「消防団の詰め所に開放」「避難に使えるような建物でない」「不明」がそれぞれ 1 件あった。

(7) 災害廃棄物の集積所設置

⑦今回、災害廃棄物をもとみやクリーンセンターへ直接搬入する方法のほか、行政区毎に集積所を決めて災害廃棄物を集めていただく方法がありましたが、集積所の活用について。(〇は1つ)

(〇の総数に対する割合%)



「3. 集積所を設置するほどではないと判断したので設置しなかった」を除くと、水害の多かった大平・小浜・新殿・太田地区において「1. 集積所を設置して有効に活用できた」の割合が特に大きい傾向となった。

「2. 集積所を設置したが、課題が残った」理由として、「他地区の区長に相談して集積所を作ってもらった」「場所が良すぎて便乗ゴミが多かった」といった回答があった。

「4. 集積所の設置ができなかった」理由として、「設置をしていい場所がわからなかった」、「場所がないため」「この制度を知らなかった」といった回答があった。

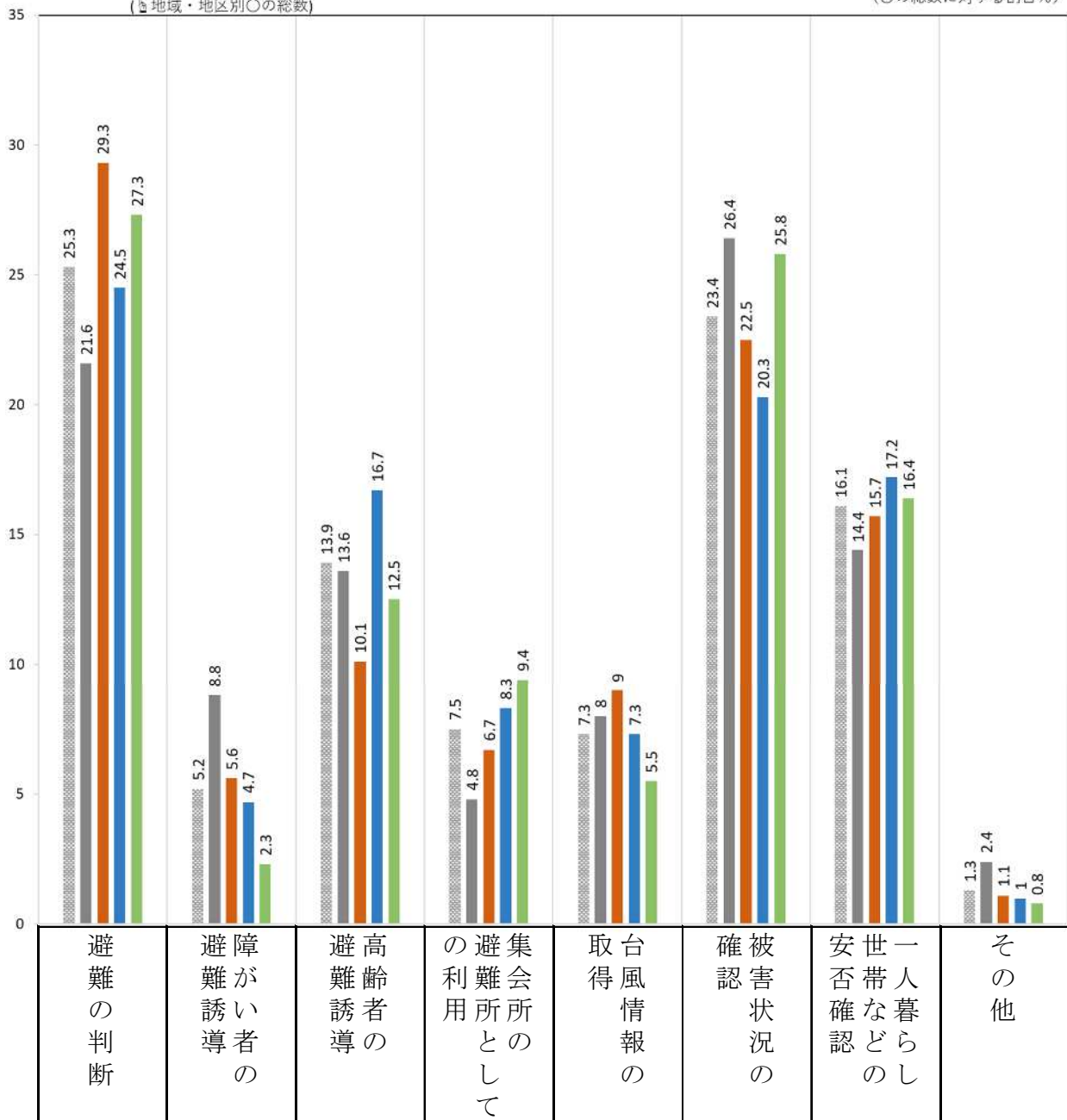
(8) 災害対応で難しいと感じたこと

⑧台風第19号で災害対応が難しいと感じたことは何ですか。(〇はいくつでも)

■全体 534 ■二本松地域 125 ■安達地域 89 ■岩代地域 192 ■東和地域 128

(〇の地域・地区別〇の総数)

(〇の総数に対する割合%)



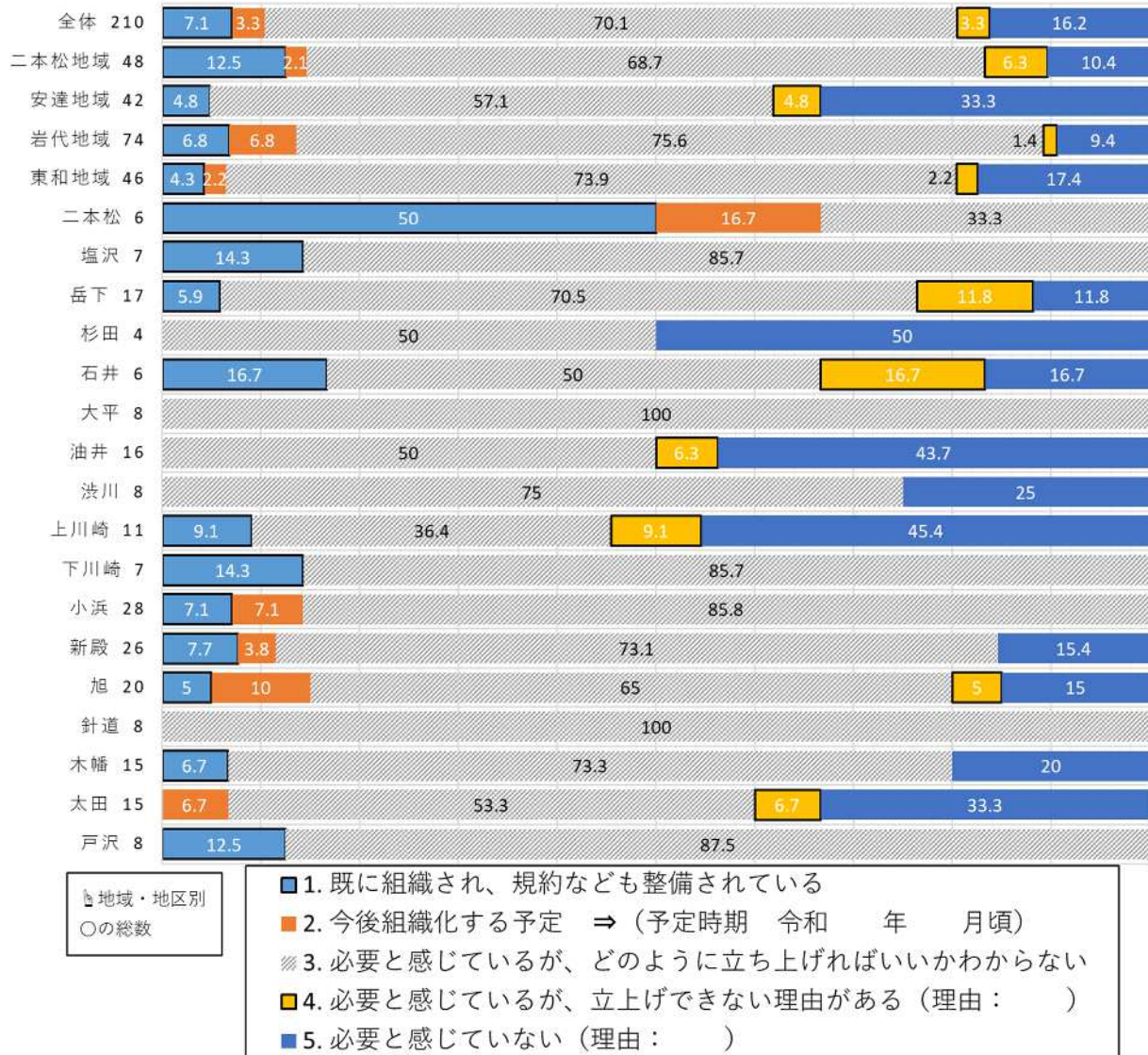
全体で「1. 避難の判断」の割合が25.3%と大きいのは、地域の状況に応じ避難すべきかどうか判断に迷う区長等が多いこと、「6. 被害状況の確認」の割合が23.4%と大きいのは、被害状況の確認が難しいと感じている区長等が多いことをそれぞれ示している。次いで「7. 一人暮らし世帯などの安否確認」16.1%と「3. 高齢者の避難誘導」13.9%が大きいのは、災害時要援護者への対応が難しいと感じている区長等が多いことを示しており、岩代地域で特にその割合が大きい。

「8. その他」としては、「六角川の内水氾濫水の緊急ポンプアップ排水」「民間人の行政行為の是非」「停電に対する対応」「夜間」といった回答があった。

（９）自主防災組織の立上げ

⑨自主防災組織を立ち上げていますか。（〇は１つ）

（〇の総数に対する割合％）



当市に規約等届出のある自主防災組織は３行政区等であるのに対し、「１.既に組織され、規約なども整備されている」として１５件回答があった。（消防団や女性防火クラブなどを自主防災組織と認識しているケースも考えられる。）

「２.今後組織化する予定」が７件あり、時期はいずれも「令和２年度中」との回答であった。

「３.必要と感じているが、どのように立ち上げればいいかわからない」が全体で７０.１％と圧倒的に多く、自主防災組織の立上げに対する支援が必要であることがわかった。

「４.必要と感じているが、立上げできない」理由としては、「地域の一体感がない」「人員の確保」といった回答があった。

「５.必要と感じていない」が全体で１６.２％と２番目に多く、理由としては、「区の役員が対応、別組織は不要」が４件、「消防団が役割を担っている」「隣近所と連携ができています」がそれぞれ３件、「災害が発生しない地区」が２件あった。地域により自主防災組織の必要性の認識に差が大きいことがわかった。

(10) 市に求める災害対策

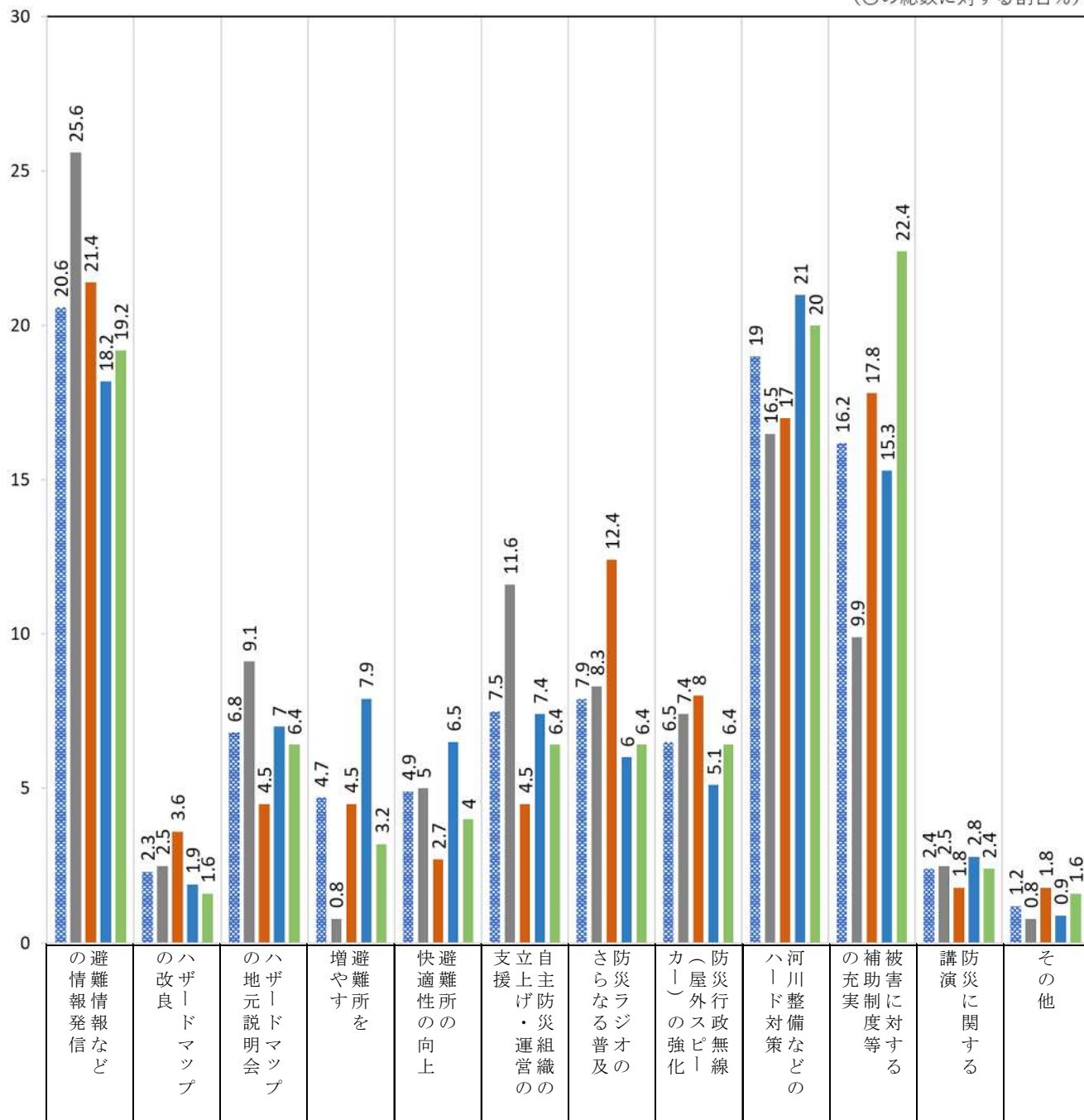
⑩市に求める災害対策として特に重要と考えるものは何ですか。

(重要なものから○を3つまで)

■全体 573 ■二本松地域 121 ■安達地域 112 ■岩代地域 215 ■東和地域 125

(地域・地区別○の総数)

(○の総数に対する割合%)



全体では「1. 避難情報などの情報発信」が20.6%と最も多く、次いで「9. 河川整備などのハード対策」が19%、「10. 被災者に対する補助制度等の充実」が16.2%と多かった。

その他の項目を地域別でみると、二本松地域では「6. 自主防災組織の立上げ・運営の支援」が11.6%、安達地域では「7. 防災ラジオのさらなる普及」が12.4%、岩代地域では「4. 避難所を増

やす」が7.9%といった項目が特に多かった。

二本松地域では「4. 避難所を増やす」「10. 被害に対する補助制度等の充実」の割合が他の地域に比べて低いなど、被害の大きさと、避難者の数などにより地域毎に市に対して求める災害対策に差があることがわかった。

「12. その他」としては、「区の集会所被害に対する補助」「住民の意識改善」「身近な情報が収集できなかった」「テレビでは範囲が広い情報でピンポイントの情報が手に入れられなかったので防災ラジオなど無料で各所に配ってほしい」「避難の援助」「災害復旧工事は元に戻すのが原則らしいが、想定外の災害が起こる時代なので、さらなる万全を求む」「防災ラジオを2階建て住宅の場合、2階にも1台設置（貸与）してほしい」「危険地帯の被害がでる前の対策」「予想されるところを対策する」といった回答があった。

(11) その他災害全般に対する意見

地域	地区	⑪その他（災害全般に関するもので何かご意見ございましたら記入願います）
二本松	二本松	市の災害対策本部と地元の自主防災組織間に情報が共有されていないと思う、リアルタイムで情報が地元につながる仕組みを作る必要がある。
	塩沢	これまで大きな災害を経験していない地区であるためか防災意識が低い。
	岳下	六角川の出口に樋門があり閉められた為内水氾濫水が溢れ水田生活道路、東北本線に障害、被災し、法面崩れが生じた。氾濫水のポンプアップ設備の設置を早急にする。
		団地の北側に太陽光発電の設備ができましたが、山の斜面にあるので、地震や台風などで崩れたらどうなるかという心配がある。今回は特に被害はありませんでしたが、以前山からの流出物で用水路が詰まり水があふれたことがある。
	杉田	杉田駅西側は大雨時用水路からの越水により床下浸水の発生リスクが高い地域となっている。杉田停車場線が開通すると更にリスクが高まる。（JR 東北本線が堤防となり、杉田駅西側地域に水が溜まりやすくなっている）市当局においては大雨時現地確認を行い、将来の防災対策に反映願う。
		防災ラジオの放送の範囲によっても違いがあると思うが、もっと多く実際の被災地の放送が必要だと思う。
	大平	水害に対する市の対応が遅い、これからもこのような大水害はあると思う。よろしく願います。
		高い所の土砂崩れ、低い所の水没災害、どちらにしても異常気象の中、起こるであろう災害を想定しての河川、土手整備等のハード事業の対策の強化をお願いしたい。
		この地区は土砂災害が最も心配な地区です。土砂災害が起きない対策、マニュアルを作してほしい。
		災害の復旧作業などは、課ごとの考えではなく市全体での対応で考えていただきたい。
安達	油井	水害後に道路を洗うので消防の方々が近くの事業所の前庭を流していたので前の道路も流してほしいと頼んだが駄目だった。前の水害の時は快く流してくれた。縦割行政か。
		安達地区の避難所が川の側で河川氾濫したら避難所に行けない。
	下川崎	今回私の家は床下浸水しました。大雨の度に災害を受けるので水路を検討し対策を実施してもらいたい。以前にも3回床下浸水している。

岩代	小浜	復旧工事を早急に進めてほしい。
	新殿	地域によって対応策が違って来るなど考えられるためその自治会ごとに考えなければならない課題が多い。特に一人暮らし高齢者等。
		新殿住民センター以外避難所がない。
		自治会の人員の高齢化により防災に対する備えがなかなか大変になることが予想される。
		情報発信等は必要だと思いますが、住民の意識の改革(災害に対する)そして重要なのは免許返納を勧めていて夜間、大雨の中、何キロも高齢者が避難することは現実的ではない。
	旭	住居以外にも被害者支援を強化してほしい。
東和	針道	台風19号の災害時に当集落では区長が先頭に立ち、被害状況の確認と市の道路の土砂片付け、家の被害状況、林道の被害状況など確認し、市役所に行き、被害状況を伝えました。市と区長との早い連携の協力が必要である。
		台風19号で多大な被害が出ましたが、道路に土石流が押し寄せました。県道であるので路肩にまだ残っている石を早く除去してほしい。小手森集会所より月夜畑に向かう右池の周辺です。
	木幡	各行政区の危険地帯を聞いてほしい、地元の人しか知らない所も多数あるはず、小規模の災害は多数あるはずなので。
		台風など災害時に区長一人で集落内を調査するのは大変なので班長さんなど集めて4人～5人で調査すればきめ細かく見られると思うので、自主防災組織の立上げが重要と思う。
		今回の台風による被災は、自然災害とのひとことでは済まない。特に河川の整備等はもう少し見直してほしい。
	太田	行政窓口が主に建設課(市道修繕依頼)でしたが災害時はオーバーワークになり対応しきれないと思う。他課からの応援も必要と思います。
		道路、側溝の整備。

※このように、災害全般に関する様々な意見があったため、全庁で情報を共有する。

3 まとめ

令和元年台風第19号による被害は、市内でも地域・地区により被害の程度が大きく異なった。そのため、区長等の災害時の対応も地域・地区により異なり、災害が多く発生した箇所においては、情報収集、集会所等への避難所開設、避難者の誘導、被害状況の確認、災害廃棄物の集積所の設置など、様々な災害対応に苦慮された事が伺える。また、今回災害対応が必要無かった地域においても、今回のアンケートを通して災害時における区長等の役割について再認識いただくきっかけとなったと考えられる。

災害時において「自助」・「共助」・「公助」のうち、地域住民にとって最も身近できめ細かな対応が可能である「共助」の役割を強化するため、今回のアンケート調査結果で得られた結果を基に、市としてできる対策を検討していく必要がある。

具体的な対策例は下記のとおり。

- ・ハザードマップの存在と利用方法について、出前説明会を行うなど更なる周知を図る。
- ・新たな災害危険区域等の追加指定に合わせ、ハザードマップをよりわかりやすい内容へ改良を図る。
- ・災害情報を得る手段は防災ラジオのほか、登録制緊急情報メール、市公式ツイッター等、様々な情報媒体があることを周知し、積極的な利用を推進する。
- ・防災ラジオを始め様々な情報媒体を組み合わせ、災害情報を伝える。特に避難情報などは聞き逃しを防ぐため、防災ラジオで複数回放送するといった対応を検討する。
- ・避難所について、市の指定避難所の追加等見直しを検討するほか、分散避難と合わせて地区における集会所の避難所利用の必要性を周知していく必要がある。合わせて避難所として利用する集会所に対し、防災ラジオの無償貸与を検討する。
- ・災害廃棄物の集積所を必要に応じて速やかに設置できるよう、地元で場所を予め想定していただく働きかけを行う。
- ・災害時要援護者に対する安否確認及び避難誘導について、災害時要援護者支援制度の活用を周知するほか、防災訓練に参加いただく機会を設けるなど、支援を図る。
- ・自主防災組織の立ち上げについて、出前説明会のほか市ウェブサイト等も利用し、積極的に支援を行う。
- ・災害に備え市で行うことができるハード対策には限界があるため、効果的なハード対策の実施を国・県に働きかけていく。
- ・内水対策として小型排水ポンプの導入を検討する。
- ・岩代、東和地域においては河川の浸水想定区域の設定がないため、令和元年台風第19号で浸水した箇所を示すポスター型ハザードマップの作成を検討する。
- ・被災した箇所の早期復旧への要望が多いことから、市の災害復旧事業の早期完了を目指すほか、国・県による災害復旧事業の早期完了への働きかけも引き続き行っていく必要がある。